

# 研究の概要

## 1 研究主題

### 自己を見つめ、認め合い高め合う子どもの育成

～考え・議論する道徳の授業づくりをとおして～

## 2 主題の設定の理由

本校では学校教育目標を、「日々に新たに！夢輝かせたくましく生きる子どもの育成～ことばで心をつなぎ 認め合い高め合う姿を求めて～」として、日々に新たに（「一日一日の積み重ねを大切にし、毎日を新たな気持ちで前向きに生きる」の意）「徳」「知」「体」のバランスのとれた子どもの育成を目指している。

本校の子どもたちを見ると、明るく元気で活動的であり、与えられた役割には責任をもって一生懸命に頑張ることができる。しかし、全国学力学習状況調査や県学習状況調査の質問紙調査結果から、全体的に自己肯定感や向上意欲、挑戦意欲などに課題があることも明らかになっている。

さらに、今日的課題として今年度から先行実施された「特別な教科 道徳」において、自己を見つめ、人としての生き方や在り方について深く考え、語り合う道徳科の充実という道徳の授業の質的変換が求められている。

こうした本校の実態と道徳科の目標を踏まえて、考え・議論する道徳の授業を実践することで、「自己の心を見つめ、よりよく生きようとする子ども」「主体的に考え、道徳的価値に気付く子ども」を育てていきたいと考え、研究主題を「自己を見つめ、認め合い高め合う子どもの育成」と設定した。

## 3 目指す子どもの姿

- 自己の心を見つめ、よりよく生きようとする子ども
- 主体的に考え、道徳的価値に気付く子ども

## 4 研究の仮説

考え・議論する道徳の授業づくりをとおして、多様な考え方にふれることで、自ら考え、よりよく生きようとする子どもに育つのではないだろうか。

## 5 研究の重点

### < 重点 ① > 心をゆさぶり、道徳的価値の気付きを促す学習展開の工夫

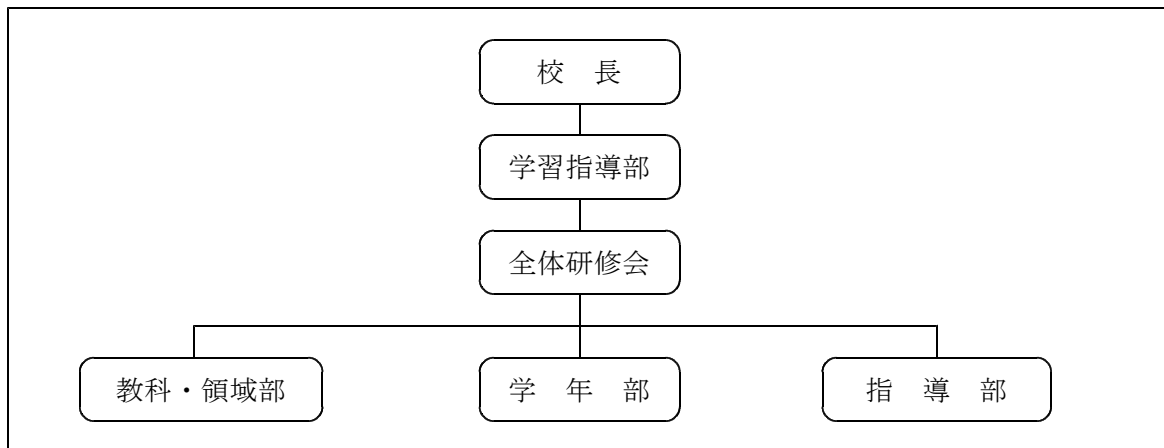
- ・興味・関心を高め問題意識をもつことができる教材との出合わせ方や提示方法の工夫
- ・教材の特性を生かした指導方法（自我関与が中心な学習、問題解決的な学習、体験的な学習）の吟味
- ・各教科等の学習内容や体験活動、身近な出来事の教材化
- ・ゲストティーチャーやTTの活用
- ・学習の意識化を図る環境構成

### < 重点 ② > 考えを広げたり、深めたりする手立ての工夫

- ・発問の工夫（テーマ発問、問い返し、ゆさぶりなど）
- ・自分の立場や考えを可視化する工夫（ネームプレート・付箋紙等）
- ・ペアやグループの話合いの場
- ・ホワイトボードの活用
- ・ワークシートなどの書く活動
- ・構造的な板書

## 6 研究の組織と進め方

### (1) 研究の組織



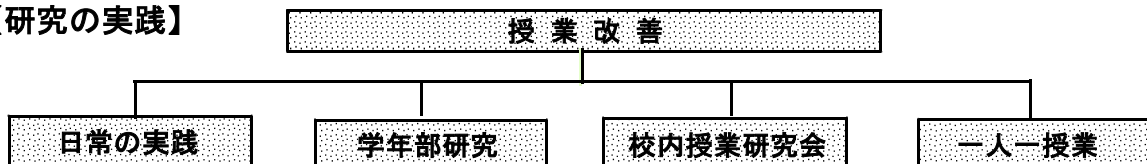
### (2) 研究の進め方

- ① 学習指導部会で原案を作成・検討する。
- ② 全体研修会で、研究の進め方などについて共通理解を図る。
- ③ 子どもに対する道徳アンケートを実施する。
- ④ アンケート結果に基づき、各各学年で「学年研究計画」を立て、日常的に授業実践に取り組む。
- ⑤ 各学年部は年1回の校内授業研究会で道徳科の授業を提示し、検証する。
- ⑥ 研究の成果を研究集録としてまとめる。

### (3) 研究の検証方法

- ① 道徳アンケートを実施し、子どもの実態の変容を把握する。
- ② 授業研究協議会における重点項目についての授業分析をおおして、「目指す子どもの姿」に迫っているかを検証する。

### 【研究の実践】



- 学年部研究
  - ・ 学年主任と学習指導部員が、研究計画立案と実践のリーダーシップをとっていく。
  - ・ 学年のテーマとその具現化のための研究計画を作成する。
  - ・ 研究計画に基づいて日々の実践に努め、その成果と課題を明らかにするとともに、課題解決の方策を探る。
- 校内授業研究会
  - ・ 年1回、学年部で検討し、授業提示する。
  - ・ 校内授業研究会は、年3回実施する。1回につき1～2学年が授業を提示する。提示授業について協議会を行い、授業改善につなげる。
- 一人一授業
  - ・ 授業力向上を目指し、一人年1回、提案型の指導案を基に授業を提示し、学年部内で見合い授業後に協議会を行う。(計画訪問の特定授業者および校内研究授業、初任者研修での提示授業者を除く。)

## 7 月別学習目標

月	目 標	指 導 事 項
4	○ 学習のしかたを身に付けよう ○ しずかに読書をしよう	・学習のルールづくり ・「学習の約束」の活用 ・まつかぜタイムの読書の仕方を身に付ける。
5	○ ノートの使い方をおぼえよう ○ 話の聞き方を身に付けよう	・各教科のノートの使い方の確認 ・日付、めあて、問題、自分の考え、友達の考え、まとめ、ふり返りのカードの活用
6	○ 家庭学習に進んで取り組もう	・「家庭学習の手引き」の活用 ・家庭学習の意義や内容、時間、学習環境について
7	○ 計画を立てて学習しよう	・予習、復習をする。 ・夏休みの学習計画を立てる。
8・9	○ 進んで発表しよう	・授業における発言・発表の基本型の習熟を図る。 ・時や場に合った声の大きさを考えて話す。
10	○ 考えを伝え合おう	・ペアやグループなどの話し合いの仕方を身に付ける。 ・話し合いのルールを確立し、習慣化を図る。
11	○ すずんで読書をしよう	・読書の充実 ・図書館の効果的な活用を図る。
12	○ これまで学習したことを しっかり身に付けよう	・苦手なことの克服 ・学習内容の確実な定着をめざす。
1	○ 学習のきまりをたしかめよう	・「学習の約束」の再確認
2・3	○ 学習の仕方を振り返り、 進級の準備をしよう	・1年間の学習の振り返り ・学習調査を受けての弱点の克服

## 8 研究計画

月 日	校 内	校 外
4 / 6 (月)	全体研修会① ①本年度の研究について ②学習指導について	
4 / 17 (火)	全国学力学習状況調査 (6年)	
4 / 25 (水)	全体研修会② ①研究の概要について ②学年研究計画について	
5 / 17 (火)	中央教育事務所長訪問	
7 / 3 (火)	第1回授業研究会	
7 / 17 (火)	秋田市教育委員会計画訪問	
8 / 24 (金)	校内研修会	
9 / 12 (水)	第2回授業研究会	
10 / 15 (月)	秋田市基礎学力検査 (5年)	
10 / 17 (水)		全市一斉授業研究会 (中学校)
11 / 14 (水)	第3回授業研究会	
12 / 5 (水)	県学習状況調査 (4～6年)	
1 / 11 (月)	校内研修会	
3 / 13 (月)	全体研修会③ ・30年度の研究のまとめ	